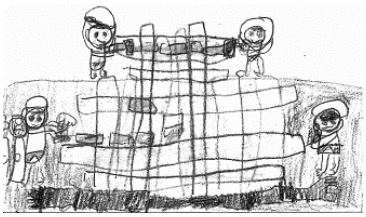
家庭教育学級長さん応援つうしん

かてきょー

NO.108

令和4年 12月発行
中濃県事務所 振興防災課 振興防災係
家庭教育担当：末松
〒501-3756 美濃市生櫛 1612-2
TEL：0575-33-4011（内線210）
FAX：0575-35-1492

親子で作る木製ジャングルジム「くむんだー」



郡上市立川合小学校　【体験活動参加型】

郡上市川合小学校では市の事業を活用し、「くむんだー郡上」の皆さんを講師に招いて親子で木製ジャングルジム「くむんだー」を作ることにより、ふるさとの山や木、そして日本の伝統建築の素晴らしさを学ぶ家庭教育学級を企画されました。（１年生対象）

【活動の背景】

- 川合小学校の家庭教育学級のテーマは「体験を通じて『親と子』『人と人』のつながりを深める」であり、「くむんだー」はこのテーマにつながる活動であると考えた。
- １年生は幼稚園の時、子どもだけで「くむんだー」を体験しており、「是非、親子で一緒にやりたい」という保護者の強い要望があった。

【当日の様子】

- 学級長さん、「くむんだー」関係者、学級担任が事前打ち合わせを２回実施し、特に安全面について確認し、活動の流れや内容を具体的に知らせて親子が安心して活動できるよう配慮されました。
- 当日は子どもたちが会の進行を行い、子どもの成長した姿、活躍する姿を保護者に見ていただけるようにしました。

紙芝居で木について学んだ後、説明を聞きながら「くむんだー」を組み立てます。
「くむんだー」は木の柱と貫（ぬき）を組み、そこにくさびを木のトンカチで打ち込んで作ります。

「かめさんチーム」「うさぎさんチーム」に分かれて役割を分担しながら、親子で協力して木を組んでいきます。

完成！
みんなで記念写真を撮影しました。

最後に、釘を使わずに作られている合掌造りや錦帯橋の説明を聞き、その作り方は「くむんだー」と同じであり、今日、自分たちは、日本古来の建物の作り方を学んだことを確認しました。

【参加者の感想から（抜粋）

「おやこでくむんだー」たのしかったよ！

11 がつ 10 にち 木 ようび

なまえ

たのしくみんなでときょうりょくしてさいごまで
がんばれてよかったです
親子・友達と協力して作る事ができて楽しかったです。
自分で考えたり、友達と教え合ったり、声をそろえてとてもいい時間でした。

＊おやこかつどうで こころにのこったことを えとぶんにかいてみよう。
どんなきもちだったかを かいてみよう。

- みんなでなかよくきょうりょくしあって、おやともなかよくたのしく、みんなでくむんだーをつくれたのでよかったです。（子ども）
- とんかちとくさびで“はしら”と“ぬき”をうててたのしかったです。みんなとなかよくできてたのしかった。（子ども）
- 親子、友達と協力して作ることができて楽しかったです。自分で考えたり、友達と教え合ったりする子どもの姿が見られて、声も出ていてとてもいい時間でした。（保護者）
- 親子で力を合わせて頑張りました。家ではなかなかできない体験なので、とてもよい経験になりました。子どもたちが一生懸命な姿が見られてうれしかったです。（保護者）

【取材を終えて・・・】

当日は休み時間も惜しんで「くむんだー」に取り組む子どもたちの姿が印象的でした。親子で言葉を交わしながら「くむんだー」を作り上げる、笑顔で溢れる家庭教育学級となりました。

川合小学校では市の事業をうまく活用して家庭教育学級を展開されています。講師選びや予算で悩んでおられる園や学校は多いですが、こうした事業の活用も、ぜひ参考になさってください。

オンラインで同時配信！

人権を大切にした「あいさつ・話し方講座」

関市立金竜小学校　　【講演会型】

関市は人権教育に力を入れておられ、市内の小中学校では、３年に１度、人権に関する家庭教育学級を実施しています。

今回、金竜小学校では、全校を対象にした人権講座を開催されました。その様子を紹介します。

【テーマ】

人権を大切にした「あいさつ・話し方講座」

講師：フリーアナウンサー　浅井　彰子　氏

コロナ禍ということで、当日はオンラインでの講演会とし、家庭で親子一緒に講演を聞くことができるよう配慮されました。また、参加者を巻き込みながらお話ししていただけるように、PTA 代表の方数名に会場に入っていただく形で、会場開催も同時に行われました。

【主催者の願い】

金竜小学校では、特色ある活動として「思いやり SAVE 活動」（S：そうじ・A：あいさつ・V：ボランティア・E：エコ）を伝統的に行っている。「コロナ禍においても、互いを思いやるあいさつを進んでできる子どもたちを育てたい」という願いのもと、この講演会を企画した。

【講演の内容】

当日は、「親子で話し合いながら講演を聞いてほしい」という家庭教育学級長さんのあいさつから会がスタートしました。

〇日本語の特徴について

・日本は一音一音を大切に発音する。

・最初の音をはっきりさせると相手に伝わりやすい。

〇「あいさつ」のポイント

・あかるく　いつでも　さきに　つづけて

〇相手に話す時のポイント

・ゆっくり、はっきり言う。単語の最初をはっきり言う。

・予備知識のない人が１回で聞き取れるようにするのがコミュニケーションの基本、思いやり。

〇「声は人なり」

・「息」という感じは「自分の心」と書く。いい息を出すことはいい生き方をすること。

・イソップの「北風と太陽」のように、人は明るく優しい声に心を開く。

〇子どもは大人／親をなぞる。

・何も教えなくても、子どもは親によく似てくる。

・声にはその人の生きざまが表れる。

・名前を呼んでくれる人がいるのは幸せ。名前を呼ぶときは、明るく優しく温かい声で。

〇発達心理学を学ばれた経験から

・子どもがほしいのは自分に寄り添ってくれる言葉。

・多くの人に寄り添ってもらえるほど、子どもは頑張れる。子どもには“寄り添う言葉”をたくさんかけたい。

【参加者の感想から】

副学級長さんのあいさつの後、参加者の感想交流が行われました。

・あっという間の時間だった。最後に言われた「寄り添う」という言葉が印象に残った。人に寄り添った声かけをすることで、自分が認めてもらえる気持ちになる。

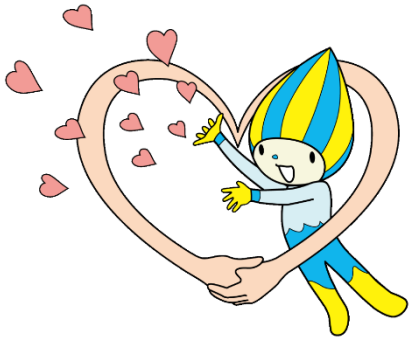
・話す声だけでなく、表情や身振り、手振りの伝え方がとても分かりやすかった。

・「子は親をなぞる」という言葉にドキッとした。話し方についても言葉についても気をつけていきたいと思った。

・経験をもとにしたお話を聞かせていただき、自分の子育てを見直すことができた。

【取材を終えて･･･】

参加者を巻き込みながらの自己紹介があったり、心にしみる読み聞かせがあったり、と、飽きることのないご講演でした。
相手の立場に立ち、明るく優しい声で寄り添った言葉をかけることの大切さに、改めて気づかされた時間でした。



親子で考えよう
わが子は思春期・反抗期

郡上市立明宝中学校　【講演会型→サロン型】

明宝中学校では、思春期や反抗期について親子一緒に話を聞き、その後で親子交流会をもつ形の家庭教育学級を実施されました。学級委員長さんが中心になって進行されるなど、大変主体的な家庭教育学級となりました。

【テーマ】

思春期って何？ どうするの？　～明日の自分が褒めてくれる今日を～

講師：美濃教育事務所 地域カウンセラー　樋口 緑 氏

【主催者の願い】

- 思春期について親子が情報を共有した方が良い関係を保ってこの時期を乗り越えられると思い、思春期についての講話を親子で一緒に聞けるように計画した。
- 他の親や子どもと笑顔で和気あいあいと話すことで、親は子に、子は親に声をかけることの楽しさを再認識してもらいたいと考えた。

【当日の内容】

○　講演

- 思春期とは「自分を知る時期」、「自分探しの時期」
- 思春期の子をもつ親の思い、思春期を過ごす子の思い
- 子どもたちを取り巻く現代の複雑な環境
- 子どもたちの意識（高校生の意識調査から見えてくる日本の高校生の自己肯定感の低さ・明宝中１年生の意識の実態）
- やがて子どもは一人で生きていく　～「はなちゃんのみそ汁」の話～
- 今（中学生）は親子関係のリニューアル期
- 思春期に知っておくと得すること４点
  「自他の違いを知る」「失敗体験をプラスの視点で」「みんな悶々としながら成長している」「思春期（反抗期）は、永遠ではない」

○　親子交流会（学級委員長さん進行）

親子が４つのグループに分かれ、ローテーションしながらテーマに沿って交流

＊テーマ１ ：「めっちゃ私を褒めて ～親から子へ～」
＊テーマ２ ：「めっちゃ私を褒めて ～子から親へ～」
＊テーマ３ ：「実はうちの親･･･ ～子から親へ～」
＊テーマ４ ：「あー、しまった、と思っていること、実はやってしまったこと ～子から親へ～」

☆親子交流の際には、学級委員長さんから「何を言ってもお母さんたちは大丈夫だよ」と温かい言葉がけがありました。ローテーションを行うたびに和らいだ雰囲気になり、どのグループからも笑い声が聞こえ、楽しく交流していることが伝わってきました。

＜テーマ１＞
みんな素直で、本当に
すごい仲間だよ。

＜テーマ２＞
いつも朝起こしてくれて
ありがとう。

＜テーマ３＞
実はうちの親、
よく怒るんです。

＜テーマ３＞
そんなこと、ここでは
言えない・・・。

＜テーマ４＞
コップを割ったのは私
だけど・・・。
言えていません・・・。

【保護者の感想（抜粋）】

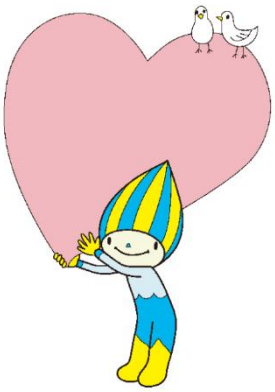
- 講演のあと、息子が日々の反省、これから気をつけていきたいことを発表してくれ、素直にうるっとするほど嬉しかった。言葉は少ないがよく分かっているのかなと。私も自分を反省し、子どもに寄り添っていきたいです。

- 思春期の子どもの特徴が再確認できました。今回の交流会・講話などで、自分が反省する点がたくさんありました。親の意見ばかり押しつけて子どもの思いを大切にできていなかったことに気づきました。これからはもっと子どもの思いに寄り添い、思いを大切にして親子の関係をうまく保ち、思春期を過ごしていきたいです。

- 自分も通ってきた道だから分かっているつもりだったけど、私は私で、子どもは子ども。考え方も価値観も違うのだから、押しつけてはいけないなと思いました。確かに先が見える分、ついつい小言をぶつけてしまうけど、本人が乗り越えていけるように、サポーターとして見守っていきたいですね！！

- 思春期の「ヘルプからサポートへ、そして見守りへ」の親の移行期、「依存から相談へ、そして自立へ」の子どもの移行期。互いの変化が大きい時だからこそ、うまくいかず、“反抗期”という状態を悪化させてしまうのかもしれません。子どもの声を鵜呑みにする前に、ひと呼吸！彼が本当は何を訴えているのか考えられる親になりたいです。

- 講師の先生の話、とってもよかったです。失敗談を聞きながら、“ああ、今の私だ”と共感と同時に安心感、“誰でも同じような気持ちを経験しながら親として成長していける”と感じることができました。子どもとの対話もよかったです。

【取材を終えて･･･】

- 親も子も地域の乳幼児学級の頃からの仲間で、お互いに何でも知っているという安心感のある中での会であり、温かさを感じました。
- 学級委員長さんが事前に進め方やテーマについて考えておられ、交流でも進行をされるなど、大変主体的な会となりました。
- 会には市の地域担当者も参加され、活動を見届けられていました。学校とともに家庭教育学級を充実させていこう、という熱い思いを感じました。